

語学能力証明書

下記学生の語学能力について、留学先大学で使用する言語での勉学・研究に支障がないことを以下のとおり証明します。

記

■対象学生

学籍番号	
フリガナ	
氏名	
希望する 留学先国・地域	

■評価者

フリガナ	
氏名	
所属	
身分	
応募者との関係	<input type="checkbox"/> 現在指導中 (科目名 :) (科目名 :) <input type="checkbox"/> 過去に指導した (指導年度: 年度) <input type="checkbox"/> その他 ()

■対象学生の語学能力評価

記入日	年 月 日					
留学先での 使用言語						
語学能力	区分	総合評価	話す力	聞く力	書く力	読む力
	評価					
※上記区分について、裏面(次ページ)に掲載する CEFR (Common European Framework of Reference for Languages)に基づき評価してください。						
所見						

以上

外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠

熟練した 言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した 言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいいてい事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の 言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

(出展) プリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構